

ま え が き

この度、平成17年10月20日に開催した運営諮問会議の概要を報告書にとりまとめ、刊行する運びとなりました。お忙しい中、出席いただき、積極的にご審議に参画いただいた委員各位に厚く御礼申し上げます。

運営諮問会議は、平成16年度の独立行政法人化を契機に従来の外部評価委員会を改組し、教育研究活動をはじめとする学校運営に関する評価に加えて、運営方針や教育研究計画について幅広くご意見をいただく機関として再出発したものです。

今回は、高専にとって、喫緊の課題である優秀な入学者の確保と創造的、実践的な技術者育成のための地域連携教育活動の推進に焦点を絞って、現状と課題を報告し、ご意見をたまわる形で会議を開催させていただきました。第1のテーマについては、少子高齢化が進み、人口減少社会に入った中で、高専教育の良さを中学生及びその保護者に十分理解いただいた上で、双方にとってベストな進路選択をしていただくためには、教育理念や教育目標、アドミッションポリシーなどをより分かりやすい形で提示するとともに、これまで以上に戦略的に広報活動を行うことが必要になってきます。また、第2のテーマに関しては、従来から創造的、実践的な教育を目指し実験実習を重視し、問題解決型のグループ学習の導入にも努力してきましたが、高専教育の特色をより発揮していくためには、地元企業などの協力を得て地域協同のものづくり教育を展開していくことが求められております。今回、このような課題に対し様々なご提案・ご意見を頂きましたが、問題は、学校が有する限られた人的、物的資源の中でより良い選択と集中を行い、教職員全員が共通の認識と目標を持ち、いかに協力して実行していくかという点にあるわけで、明確な目標を掲げ、スパイラルアップの取り組みを着実に進めていきたいと考えています。

なお、基本的な課題である教育の質の向上については、今年度生産工学プログラム及びシステムデザイン工学プログラムが新たに JABEE（日本技術者教育認定機構）の審査を受けるとともに、生物応用化学プログラムが中間審査を受けるなど様々な面で積極的な努力を行っているところでありますが、それらについても、今後機会を設け、改善方針や改善状況について評価をいただきたいと考えています。また、国際的に通用性のある教育を目指し新たに導入されることとなった学修単位（家庭学習を含む45時間の学修を1単位とする単位制度）への対応など高専教育の構造改革とも言うべき課題につきましても、次回以降に課題として取り上げ、ご意見をいただくつもりです。

本校としては、地域に根ざした高専として、地域の未来を担う有為な技術者を育成することはもとより、様々な機関・団体と協力して地域産業の振興など地域の発展課題に取り組むために、運営諮問会議でのご議論、ご意見を積極的に生かして学校の運営に当たっていく所存です。委員各位には、引き続きご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成18年2月

新居浜工業高等専門学校長 水 野 豊

1 運営諮問会議委員及び学校側出席者

運営諮問会議委員

氏 名	現 職
○ 青 野 正	新居浜商工会議所会頭
岡 田 円 治	日本放送協会松山放送局長
◎ 小 松 正 幸	国立大学法人愛媛大学長
佐々木 龍	新居浜市長
田 中 務	愛媛県小中学校長会会長・松山市立拓南中学校長 (中学校部会長)
庭 野 正 廣	住友化学株式会社 理事 基礎化学品研究所長
平 田 利 實	ユースエンジニアリング株式会社 会長

◎は会長、○は副会長

代理出席者（青野委員、佐々木委員は所要で欠席。）

氏 名	現 職
鈴 木 暉三弘	新居浜市助役 （佐々木委員代理）
西 岡 勝	株式会社西岡鉄工所 代表取締役 （青野委員代理）

（五十音順・敬称略）

学校側出席者

校 長	水 野 豊
副 校 長 (教務主事)	桑 田 茂 樹
学 生 主 事	檀 上 光 昭
寮 務 主 事	塚 野 修
高度技術教育研究センター長	川 崎 宏 一
専 攻 科 長	早 瀬 伸 樹
機 械 工 学 科 主 任	刑 部 富 夫
電 気 情 報 工 学 科 主 任	皆 本 佳 計
電 子 制 御 工 学 科 主 任	田 中 大 二 郎
生 物 応 用 化 学 科 主 任	河 村 秀 男
材 料 工 学 科 主 任	曾 我 部 卓 三
数 理 科 主 任	竹 田 正
一 般 教 養 科 主 任	鴻 上 正 明

事 務 部 長	仲 田 昇
庶 務 課 長	林 興 一
会 計 課 長	佐 伯 大 二
学 生 課 長	岡 山 司
庶 務 課 専 門 職 員	木 原 晃
庶 務 課 庶 務 係 長	河 村 義 幸

2 運営諮問会議 日程

1 日 時 平成17年10月20日（木）14：00～16：30

2 場 所 第一会議室

- 3 日 程
- 会長挨拶
 - 委員自己紹介
 - 議事 (14：05～15：00)
 - ・ 学校運営の現況説明（校長）
 - ・ 第1回運営諮問会議の各委員の意見に対する対応（校長）
 - ・ 入試志願者の確保方策について（教務主事）
 1. 入学志願状況
 2. 広報活動
 - 質疑応答 (15：00～15：20)
 - 議事 (15：35～16：00)
 - ・ 地域との連携による教育活動の促進について（教務主事）
 1. 正規の教育課程での取組み
 2. 課外活動としての取組み
 3. 教育力向上のための地域連携の取組み
 4. 地域貢献としての取組み
 - 質疑応答 (16：00～16：30)
 - 閉会 (16：30)

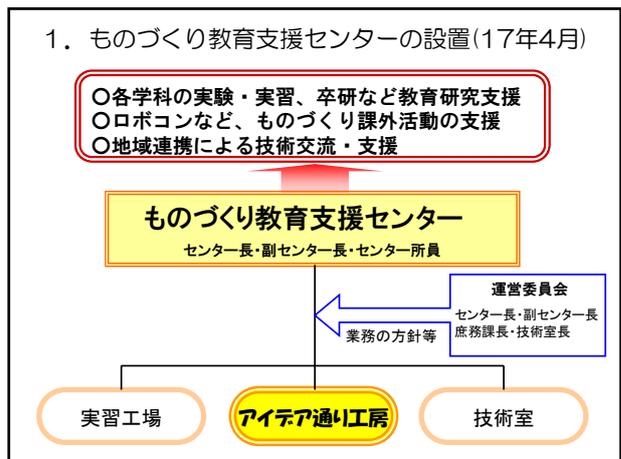


3 学校説明資料

(1) 学校運営の現況報告(校長)

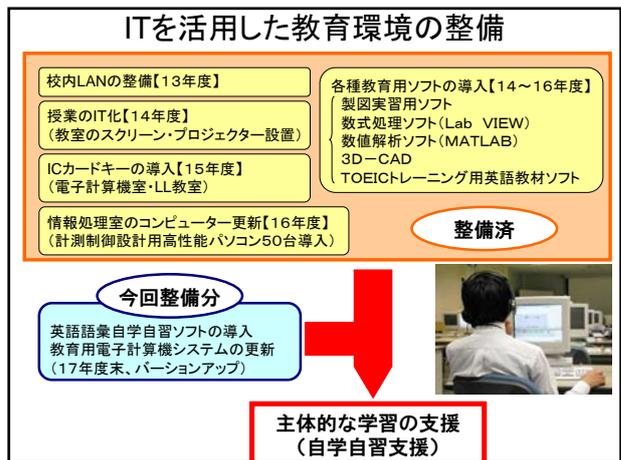
学校運営の現況報告

平成17年10月20日
新居浜工業高等専門学校



2. 学習環境の整備

- ITを活用した教育環境の整備
- アイデア通り工房の整備
- 普通教室の空調機整備



現代GP(平成17年度)に採択

『現代的教育ニーズ取組支援プログラム』

e-learningによる創造性豊かな実践的技術者育成コースの開発
—高専IT教育コンソーシアムによる協力プログラム(参加12高専)—

【創造性教育の三つの柱】

- プロジェクトの立案・管理ができる能力の育成
- プレゼンテーション能力の育成
- 知的好奇心の高揚(インターネット上の膨大な教育資源を活用)

全国規模のコンパ 学生間の交流

3年計画

- ソフト開発、コンテンツ作成
- e-learning授業の実施・評価・改良
- 全国高専への展開準備

アイデア通り工房

学生、教員及び地域住民から地域環境の向上に役立つアイデアの発想を求め、その実現に向けた取組を本校の中心に広げていく中で、本校と地域の活性化を図るとともに様々なプロジェクトの推進を通して学生に問題設定とその解決能力を付与することを目的とした、「新居浜高専アイデア通り」構想を学内全組織で進めている。この構想を円滑に推進し、そのほかに講義、ロボコン等の課外活動、体験学習等の各種イベントに多面的に共同利用する施設として整備したものの。

～利用状況～

- ト・リ・コン! 鳥人間コンテスト選手権大会に向けて、飛行機を製作する。
- ロボコン NHKロボットコンテストに向けて、アイデアの立案、ロボットの製作をする。
- 校内案内システム製作 最新の科学技術を駆使した校内案内システムを製作する。
- 寝台入浴装置の落下防止具の製作プロジェクト 身体の不自由な人のために製作する。

普通教室の空調機整備



普通教室(27)のうち空調機未整備分(20)の計画的な整備

(計画)

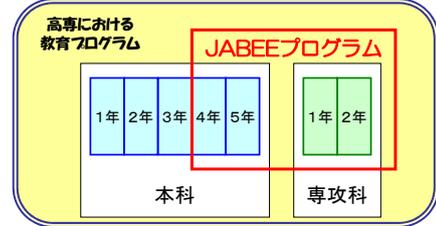
17年度……………6教室
18年度以降…14教室(3~4年計画)

今後の課題

- ・ 省エネルギーの一層の推進
- ・ 電気料金の増加に係る対応

3. 日本技術者教育認定機構 (JABEE)による教育プログラムの認定について
認定数 97機関(70大学, 27高専) 186プログラム 【平成16年度まで】

目的	認定基準
統一的基準に基づいて高等教育機関における技術者教育プログラムの認定を行い、その国際的な同等性を確保するとともに、技術者教育の向上と国際的に通用する技術者の育成を通じて社会と産業の発展に寄与すること	学習・教育目標 学習・教育の量基準 教育手段(入学者選抜方法、教育方法、教育組織) 教育環境(施設・設備、財源、学生への支援体制) 学習・教育目標の達成 教育改善(教育点検システム、継続的改善)



新居浜高専の教育プログラム

生物応用化学プログラム
(生物応用化学科、生物応用化学専攻)

16年5月認定
17年10月中間審査

「生産・品質管理部門、研究開発部門、技術営業部門などのグループリーダーまたはプロジェクトリーダーとなって貢献できる人材を養成します。」

システムデザイン工学プログラム
(電気情報工学科(電気工学科)、電子制御工学科、電子工学専攻)

17年10月受審

技術者に必要な倫理観と新しいシステムを設計・構築するデザイン能力を身につけ、ものづくりを通して社会貢献できる人材を養成します。

生産工学プログラム
(機械工学科、材料工学科、生産工学専攻)

17年11月受審

環境への影響や循環型社会を配慮しつつ、与えられた制約条件の下での人的・物的・知的資源を有効に活用しものづくりができる、デザイン能力に秀でた技術者すなわち「資源活用型技術者」を養成します。

4. 地域連携活動の強化

- 地域連携活動の「基盤」づくり

新居浜高専技術振興協力会“愛テクフォーラム”の結成
会員：企業・試験研究機関・自治体・経済団体・卒業生
平成17年7月設置

- 地域連携による独創的研究、応用開発研究の展開

共同研究等に特化した研究施設の実現
インキュベーション・ラボの新設(高度技術教育研究センター別館改修)

- 外部人材との連携強化

客員研究員、研究コーディネーター、地域連携アドバイザー、教育アソシエイト等の多様な人材の受入れ
→交流の拠点づくり(「**リエ・インルーム**」の整備)

新居浜高専技術振興協力会の結成へ (愛テクフォーラム)

〈理念〉

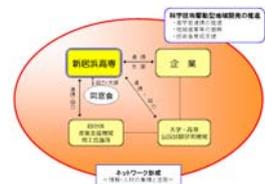
高専発社会連携活動の「**基盤**」づくり
高専発産学官連携活動の全国発信への「**起点**」づくり
高専発新産業創造のための「**交流拠点**」づくり

〈愛テクフォーラムの名称〉

技術をこよなく**愛**する人の集まり
技術によって**愛**媛の発展を願う人の集まり

愛テクフォーラムの概要

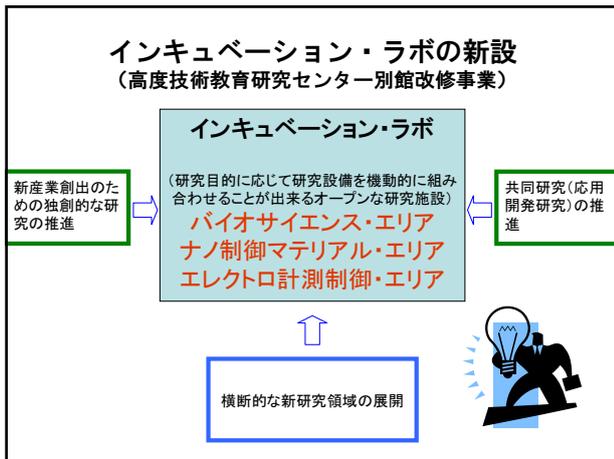
法人会員(企業) 50社
特別会員 16団体
一般会員 56人



- 事業計画
- 1 地域産業界等との人的交流・情報の交流
 - (1) 高専と共催で開催するシンポジウム等の実施
 - (2) 技術講演会、研究交流会、視察会等の開催
 - 2 共同研究等技術研究開発の連携推進
 - (1) 会員企業のニーズと高専のシーズのマッチングを図る
 - (2) 萌芽的研究費の補助、研究経費の支援
 - 3 リフレッシュ教育等技術者育成支援
 - (1) 出前講座の実施
 - (2) 会員企業の要請による研修会の実施
 - 4 新居浜高専の教育研究の振興
 - (1) 産学連携に関するイベントの支援
 - (2) 人材育成プログラムへの支援
 - (3) 地域連携活動への助成
 - (4) 学生教育への支援
 - 5 その他
 - (1) 愛テクフォーラムの会報の発行
 - (2) 産学連携に関する工業フェア等の通知・案内
 - (3) 新居浜高専で発行する広報誌の配布

専門部会

- 知的財産専門部会
- 人材育成専門部会
- 福祉工学研究専門部会
- バイオサイエンス研究専門部会
- マテリアル研究専門部会
- エレクトロ計測制御研究専門部会
- 情報通信・電子技術研究専門部会
- ロボット研究専門部会
- エネルギー研究専門部会



応募作品数

学生・一般の部	112
小中学生の部	185

応募作品を審査

↓

表彰

↓

実現可能な作品を製作

↓

公共な場所への展示

シンボルロボ アイデアコンテスト

ものづくりのまち新居浜

あなたのアイデアを
ロボットに託して

新居浜の文化、伝統の魅力をアピールするロボットを募集します!!

募集期間 7月11日(月)～7月27日(日)まで
募集対象 愛媛県在住の中学生以下(小学生以下は小学生の部)の個人またはグループ
募集内容 アイデアコンテスト
募集テーマ ① 環境・社会問題の解決 ② 防災・安全 ③ 教育・文化・観光 ④ その他
募集要項 ① 作品の大きさ: 縦横最大10cm以内(高さ最大15cm以内) ② 重量: 最大100g以内 ③ 動力: 電池駆動 ④ 制御: マイコン制御 ⑤ 発表: 7月27日(日)午後1時～3時、新居浜市立中央公民館(新居浜市中央1-1-1)にて発表会を開催し、表彰状を授与する。

TEL: 0898-37-7700

中学生ものづくりフェスタin松山

日時 8月26日(金) 模型飛行機教室

場所 愛媛大学 城北キャンパス

参加 生徒 38人 保護者 6人

模型飛行機教室

ガラス細工教室

電子工作教室



(2) 第1回運営諮問会議の各委員の意見に対する対応

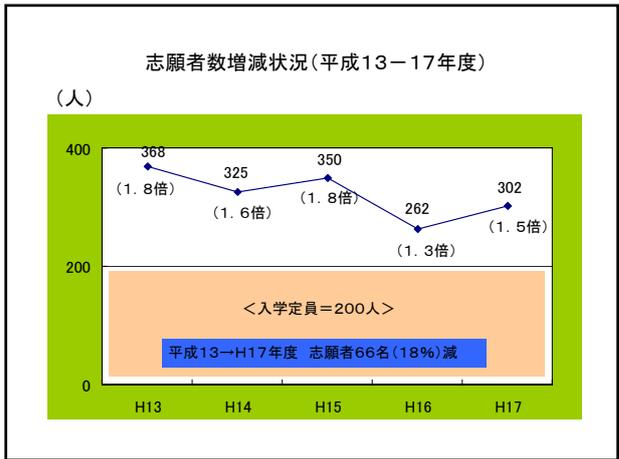
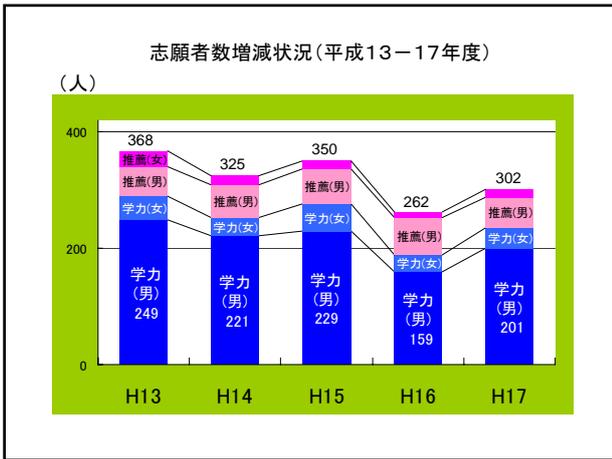
指 摘 事 項 等	対 応 状 況
<p>○創造性教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミニロボコンやセルフプランニング実験などの取り組みの積極的な推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H17から生物応用化学科の「生物応用化学実験」にセルフプランニング実験を導入 ・ 専攻科における問題解決型学習の充実 (H17 電子工学専攻「問題解決グループ演習」導入) ・ 卒業研究・特別研究論文集の作成 (H17 予定)
<p>○安全衛生に関する取り組みの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員用と学生用の安全マニュアルの作成、安全教育でのマニュアルの活用 (H17) ・ AED (自動体外式除細動器) の設置と教職員、学生を対象とした救命救急講習会の実施 (H17) ・ 寮の防災マニュアルの作成 (H17 予定)
<p>○学生指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 55高専が協力した課外活動やコンクールの取り組みの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H16から四国6高専による共同授業の実施 (H17 テーマ「海の環境とエネルギー」) ・ 全国では、プログラミングコンテスト、ロボコン以外にも、H16からデザインコンテストを実施、本校も今後参加予定 ・ 新居浜ものづくりのまちシンボルロボアイデアコンテストの実施 (H17)
<p>○研究活動と地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元企業との交流の推進 ・ 長期インターンシップの検討 ・ 教育研究設備の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H17 高専技術振興協会「愛テクフォーラム」の立ち上げ ・ 専攻科シニアインターンシップの充実 ・ 都市エリア産学官促進事業で、走査型電子顕微鏡など研究設備の充実 (H17 予定)
<p>○教育理念及び教育目標に応じた入学者確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PR活動の活発化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松山地区ものづくりフェスティバルの開催 (H17) ・ 中学生向けのわかりやすい学生受入方針の募集要項等への明示 (H17)

(3) 入試志願者の確保方策について(教務主事)

入学志願者の確保方策について

入学志願者の確保方策について

1. 入学志願状況
 - ・志願者数増減状況
 - ・入学者の出身地域
 - ・愛媛県内受験人口増減推計
 - ・入学生の実況
2. 広報活動
 - ・平成16年度入試広報実施状況
 - ・平成17年度入試広報実施状況

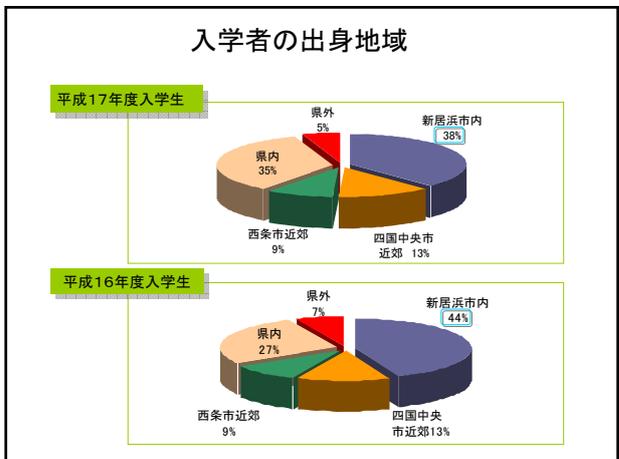


過去5年間の志願者増減傾向

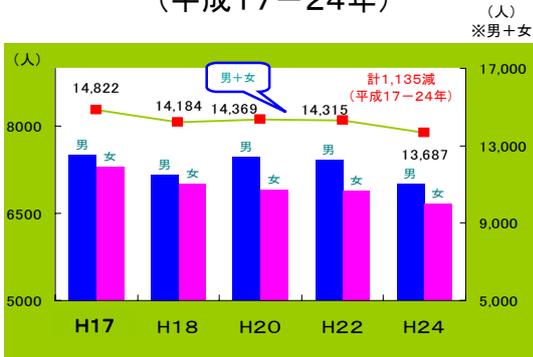
平成13年度から平成17年度の志願者数を比較した結果

↓

- 志願者の増減は、「学力試験を志願する男子の数」と相関する。
- 全体の志願者数は隔年で上下しながら、低減傾向を示す。
- 平成13→H17年度 志願者66名(18%)減少。



愛媛県内受験人口増減推計 (平成17-24年)



愛媛県下地域別生徒数増減予測(5年)

平成24年度入試対象年齢の生徒数を、平成18年度と比較した結果

- 八幡浜20%(380人)、宇和島地区15%(220人)の減少が顕著。
- 地元西条地区は7%(250人)、松山地区は4%(270人)の減少。

- 15才人口の減少傾向から現状以上のPR活動が必要。
- 生徒数の多い松山地区からの受験生確保が必要(有効)。

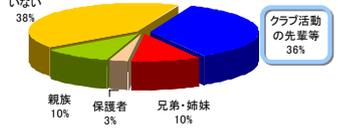
入学生の状況

新居浜高専の在校生や卒業生の知人の有無

平成17年度入学生



平成16年度入学生



入学生の状況

新居浜高専の受験を考えたいきっかけ

	H15	H16	H17
保護者や知人の紹介	28.8%	26.0%	28.6%
パンフレットを読んで	18.2%	21.3%	21.0%
本校の体験学習に参加して	18.5%	16.5%	17.2%
中学校での説明会に参加して	11.1%	13.0%	6.8%
中学校の先生の紹介で	6.5%	7.1%	8.4%
ホームページを見て	6.3%	9.0%	10.9%
オープンスクールに参加して	3.8%	4.5%	4.6%
その他	6.8%	2.6%	2.5%

新居浜高専が求める中学生像

(アドミッションポリシー)

新居浜高専は、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者の養成を目指しており、次のような中学生を求めています。

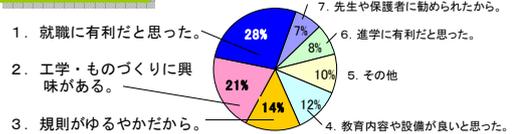
<全学科共通>

- 数学や理科が好きで、将来技術者になりたいと考えている人
- 自分の夢を持ち、可能性を信じてチャレンジできる人
- 物を作ったり、実験したりすることが好きな人
- 目標に向かって絶えず工夫し、着実に努力できる人
- ルールや約束を守り、仲間と一緒に活動できる思いやりのある人

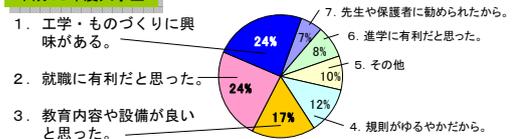
入学生の状況

新居浜高専を選んだ理由

平成17年度入学生



平成16年度入学生



入学生の状況

卒業後の進路希望

	H15	H16	H17
就 職	44.2%	38.2%	44.8%
大学への編入	19.4%	19.3%	16.5%
専攻科への進学	12.6%	11.6%	7.1%
専門学校等	3.9%	2.9%	1.4%
未 定	19.9%	28.0%	30.2%

入学生の状況



1. 在校生や卒業生の知人としては、クラブの先輩や兄弟姉妹が4割、いない者が4割である。
2. 新居浜高専の受験を考えたきっかけとしては、保護者や知人の勧めからが多い。また、ホームページを参考とするケースが増加してきている。
3. 新居浜高専を選んだ理由は「就職に有利」が多く、また、「規則がゆるやか」が増加している。
4. 卒業後の進路としては、「未定」と回答する学生が増加しており、中学生の段階で進路決定することが難しくなってきていると思われる。(よりわかりやすいPRが必要)

平成16年度入試広報実施状況

○主な広報活動

- ・ 中学校訪問の実施
- ・ 進路説明会(中学校主催)への講師派遣
- ・ 夏季体験学習の実施
- ・ 学校見学会の実施
- ・ 公開授業の実施

○広報媒体の整備

- ・ ホームページの整備
- ・ 中学生向けの広報誌「はばたけ！未来へ」の作成
- ・ 学校案内CDの作成・配布
- ・ 学生募集ポスターの作成・配布
- ・ 学生募集要項の作成・配布

主な広報活動

中学校訪問

<平成16年度>

- 目的
入試広報誌の配布、学校案内、入試状況等の説明、出身在校生についての報告を行い、併せて情報収集を行う。
- 範囲
愛媛県全中学校156校、香川県13校、徳島県21校を訪問又は資料送付。その他、岡山県27校、広島県42校を訪問
- 時期
7月を中心に実施。
- 配布資料
・入試広報誌「はばたけ！未来へ」 3年生全員
・学生募集ポスター クラス掲示
・学校案内 進路指導教諭用

<平成17年度改善点>

- ・訪問範囲を見直し、松山地区、池田地区などを重点化した。
 - ・岡山、広島県は、昨年度訪問しなかった地域を訪問した。
- 愛媛県全中学校84校、香川県11校、徳島県16校を訪問又は資料送付。その他、岡山県18校、広島県13校を訪問。

主な広報活動

進路説明会(中学校主催)への講師派遣

<平成16年度>

- 目的
愛媛県内の中学校からの要請に基づき、教職員を派遣し、15分程度で、本校の教育理念、教育方針、特色などを説明する。
- 範囲
愛媛県内を中心に39校に派遣した。
- 時期
主に9月～11月に実施した。

<平成17年度改善点>

手軽に配布できるパンフレットとして「入試広報誌のダイジェスト版」を作成した。(10月12日現在で10校実施済。11月末までに、更に26校を予定している。)

主な広報活動

夏季体験学習

<平成16年度>

- 目的
中学生(保護者及び中学校教員)を対象に、本校の施設を利用して「ものづくり」や「科学の不思議」について体験してもらった。この体験を通して高専に対する理解を促すとともに、進路決定の参考としてもらう。
- 範囲
愛媛県内外の67校から555名が参加した。
- 時期
8月3日(火)～8月4日(木)に実施した。

<平成17年度改善点>

7月29日(金)～7月30日(土)に保護者や引率教員との懇談会を新たに設定して実施した。(愛媛県内外の70校から558名が参加した。(前年度より3校増))

主な広報活動－平成16年度 夏季体験学習

- 機械工学科 
- 生物応用化学科 
- 電気情報工学科 
- 材料工学科 
- 電子制御工学科 
- 数理科 

主な広報活動

学校見学会

<平成16年度>

- 目的
中学生とその保護者を対象に、本校の教育目標や内容、各学科の施設・施設設備等を分かりやすく紹介する。
- 範囲
愛媛県内外の36校から中学生121名、保護者55名、引率教員5名が参加した。
- 時期
9月11日(土)に実施した。
- 学校案内ビデオ上映、校内施設・設備見学(全学コース)、質疑応答を午前・午後の部に分けて実施した。

↓

<平成17年度改善点>

9月10日(土)に校内施設・設備見学会に全学コースと学科別コースを設定して実施した。松山市への送迎を試行した。(愛媛県内外の38校から中学生126名、保護者55名、引率教員8名、計189名が参加した。(若干増))

主な広報活動

公開授業

<平成16年度>

- 目的
本校の講義や実験などを保護者及び中学校の教員に公開し、学生の学習の様子や本校の教育について理解してもらう。
- 時期
平成16年11月7日(日)に火曜日の授業を実施した。
- 公開授業以外に、学生相談、校長との懇談を設定して、各種相談、質問などの機会を設けた。

↓

<平成17年度改善点>

新居浜市内中学校との相互参観を行い、授業改善の機会としても利用する。(10月22日(土)実施予定)

平成17年度入試広報実施状況

- ・中学校訪問の実施
 - ・訪問範囲を見直して、松山地区、池田地区などを重点化した。
 - ・岡山、広島県は、昨年度訪問しなかった地域を訪問した。
- ・進路説明会(中学校主催)への講師派遣
 - ・新たにパンフレット(入試広報誌ダイジェスト)を作成した。
- ・夏季体験学習の実施
 - ・保護者や引率教員との懇談会を新たに設定した。
- ・学校見学会の実施
 - ・校内施設・設備見学会に全学コースと学科別コースを設定した。
 - ・松山市への送迎を実施した。
- ・公開授業の実施(10月22日(土)に実施予定)
- ・中学生ものづくりフェスタin松山の実施
 - 松山市内の中学生を対象とした、ものづくり教室を中心とした広報イベントを愛媛大学の協力を得て実施した。

主な広報活動－平成17年度

ものづくりフェスタin松山

- 目的
県内最大の生徒数を有する松山市近郊での、新たな志願者の掘り起こしと高専の認知度を上げることを目的として、初めて実施した。
- 概要
松山市近郊の中学生を対象に、例年本校で実施している夏季体験学習の縮小版(テーマを2～3に絞ったもの)である「ものづくり教室」に、「入試説明会」、「高専紹介コーナー」を組み合わせたイベント。実施にあたり愛媛大学工学部の協力を得た。
- 日時
8月26日(金) 9:30～16:00
- 場所
愛媛大学総合研究棟2(1階)
- 参加状況
小中学生38名とその家族の参加があった。



主な広報活動－平成17年度

ものづくりフェスタin松山

実施に先立って、教職員が松山市内の中学校を訪問し、ポスターと実施要項を配布し参加を呼びかけた。

↓

「中学校訪問」「ものづくりフェスタ広報」「学校見学会広報」を兼ねて行った。



広報媒体

ホームページ

新島国立技術工芸高等専門学校
Nihama National College of Technology

〒792-8580 愛媛県新島郡新島町1-1
TEL 0897-37-7100 FAX 0897-37-7662

総合案内

入学案内・入試情報

地区・企業の皆さんへ

卒業生の皆さんへ

NEWS

- 2005.09.28 平成17年度専攻科入学募集要項(2回目)の公開
- 2005.07.25 第14回新島国立高等専門学校祭の開催
- 2005.06.02 新島新聞「ムーン」に登場しました。
- 2005.04.25 平成17年度 運動部活動報告書 一覧
- 2005.02.09 新島国専校友会のホームページを立ち上げました。「総合案内」から入ります。

管理：広報課委員会 (http://www.nct.ac.jp)

広報媒体

ホームページ

入学案内・入試情報

■ 中学生の皆さんへ (入学案内)

学校案内、学生募集要項、入学試験志願状況、入学試験合格発表、過去の入試情報、学校見学会 (オープンスクール)、夏期体験学習

■ 高校生の皆さんへ (編入学案内)

学校案内、編入学生募集要項、編入学生募集要項 (第2次)、編入学生志願状況、編入学試験合格発表、過去の入試情報

■ 専攻科入試を目指す皆さんへ

学校案内 (専攻科へ)、専攻科学生募集要項、専攻科志願状況、専攻科合格発表、過去の入試情報、過去の試験問題 (入手方法について)

<新島国専ホームページ>

管理：広報課委員会

広報媒体

ホームページ

中学生のみなさんへ(入学案内) 1/2ページ

中学生のみなさんへ

このような生徒さんを求めます

- ・数学や理科が好きで、将来技術者になりたいと考えている人
- ・自分の夢を持ち、可能性を感じてチャレンジできる人
- ・物を作ったり、実験することが好きな人
- ・目標に向かって地道な工夫し、意欲に溢れる人
- ・ルールや約束を守り、仲間と一緒に活動できる思いやりのある人

高専とは

学校案内
中学生のみなさんからの質問コーナー

広報媒体

ホームページ

入試関係

平成17年度学生募集要項
平成17年度入学試験志願状況
平成17年度入学試験合格発表
平成17年度入学選抜学力検査問題・解答
過去の入試情報

行事

平成17年度夏期体験学習
平成17年度学校見学会
中学生ものづくりフェスティバル松山

広報媒体

ホームページ

中学生の皆さんからの質問コーナー

Q 高専とはどんな学校ですか

高専は3年間で、高校と大学で勉強することの両方を兼ねます。高校から大学へ行く場合と比較して授業は前半です。後期は主にこの2分野を学ぶのが中心です。他に、就職や進学などについて説明します。

詳しくはこちら

Q 入学試験について教えてください。

大学の選抜には、推薦選抜と学力選抜があります。これらの試験科目、会場、受験資格、試験科目など試験方法について説明します。過去の試験問題も公開しています。

詳しくはこちら

Q 中学生が参加できるどんな行事がありますか。

高専では、中学生の皆さんが参加できる、いろいろな行事を行っています。運動会やものづくり体験学習などがあり、高専を体験しようと考えている人に、素晴らしいオープンキャンパスや体験型オープンキャンパス、プロダクションコンテストもあります。本校を詳しく紹介するパンフレットもあります。これらについて説明します。

詳しくはこちら

Q 学校生活について教えてください。

広報媒体

入試広報誌「はばたけ未来へ！」

25,000部を愛媛県の全中学校と香川県、徳島県、高知県、岡山県、広島県の一部の中学校に配布

(中学3年生に一人1冊配布)

広報媒体

学生募集ポスター

- ・中学校訪問の際に配布又は送付する。
- ・教室や職員室に掲示してもらうことを目的とする。
- ・本校の入試日程を掲載。



広報媒体

学生募集要項

愛媛県の全中学校と香川県、徳島県、高知県、岡山県、広島県の一部の中学校、塾、報道機関に送付(1,100部を作成)



広報媒体

学校案内CD

平成16年度に作成し中学校での説明会で使用した。

平成17年度は内容を一部更新した。



志願者確保の課題



1. 各広報活動の分析・評価が充分でなく、効率的に行われていない。
2. 中学3年生を対象とした広報活動が多く、保護者や中学2年生以下に対する広報が不十分である。
3. 中学校との連携が悪く、高専の特色を十分に生徒に伝えてもらえていない。(中学校の先生に高専を十分理解してもらえていない。)
4. 間接的な広報として、留年者や進路変更者の減少を実現するなど入学後の学生の満足度をあげる。あるいは、進路先の開拓を行うなどの取組みに充分注力できていない。

(4) 地域との連携による教育活動の促進について(教務主事)

地域との連携による教育活動の促進について

地域との連携による教育活動

1. 正規の教育課程での取組み
 - (1) インターンシップ・シニアインターンシップ
 - (2) 地域・企業のニーズに対応した卒業研究
2. 課外活動としての取組み
 - (1) 地域の要請に応じた「ものづくり活動」
 - (2) ロボットなど学生の学習成果を生かした地域イベントへの参加
 - (3) 地域ボランティア
3. 教育力向上のための地域連携の取組み
 - (1) 地域の教育機関(中学校、大学など)との連携
 - (2) 地域の公的機関(市役所、消防署など)との連携
4. 地域貢献としての取組み
 - (1) 高専公開講座
 - (2) 出前講座
 - (3) シンボルロボアイデアコンテスト

1. 正規の教育課程での取組み

(1) インターンシップとシニアインターンシップ

●インターンシップのねらい

- ・本校で学習していることが、企業等の現場では実際にどのように活かされているかを認識し、その後の学習の動機付けとすること。
- ・職業に関する自分の興味や関心・適性を見つめ直すこと。
- ・実社会の厳しさを経験することによって、社会人になるにあたっての自覚を持たせ、自己啓発の機会とすること。

※本科第4学年対象 夏季休業中2週間以上
本年度の受講者数
企業:117名、大学:36名、公共機関:17名

(1) インターンシップとシニアインターンシップ

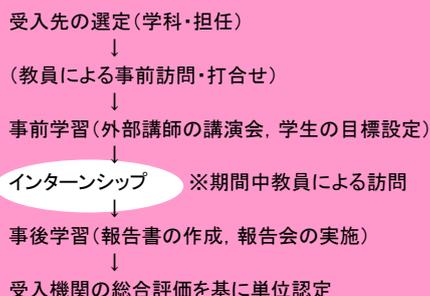
●シニアインターンシップのねらい

- ・高専で身に着けた専門基礎知識と実験技術などを用いて、問題を見出し、計画的にその問題を解決することのできる能力を確かめ、さらに伸張する。
- ・組織の一員としてのマナー、社会が要求する個人としての責任感、技術者としての基本的姿勢を修得する。
- ・実習体験で得た成果を今後の勉学の目的や特別研究に活用するとともに、自分の目指す技術者像を明確にする。

※専攻科第1学年対象 連続する1カ月程度
本年度の受講者数
企業:20名、大学:4名、公共機関:5名

(1) インターンシップとシニアインターンシップ

●インターンシップ・シニアインターンシップ実施の流れ



(1) インターンシップとシニアインターンシップ

●インターンシップの課題

- ・4年生の担任を中心としたWGにより実施しているが、受入先の選定や、受入先との事前の打合せなどが組織的に行われておらず、インターンシップの内容が本校のねらいと一致しないことがある。
- ・その結果、インターンシップの内容が「アルバイトの行う作業」と大差ないケースもある。
- ・本年度は、受入れ機関の分析・評価(3段階:適している、内容の事前打合せが必要、本校のインターンシップ先としては不適)を行い、来年度の依頼先の選定に活かすことにしている。

(2) 地域・企業のニーズに対応した卒業研究と特別研究

- 卒業研究の教育目標
研究を通して、専門知識と実験技術を問題解決に利用できる能力を修得し、さらに計画的に問題解決を遂行する能力を持つ、創造性豊かな学生の育成を目指す。
- 特別研究の教育目標
研究の遂行を通して、高度な専門知識と実験技術、自主的・計画的に研究を推進できる能力、さらには社会の要求に対応して新しい技術を提唱できる能力を持つ学生の育成を目的とする。また、論文作成や研究発表を通して、文章表現能力とプレゼンテーション能力の育成を目指す。
- 平成16年度のテーマ及び評価方法(添付資料参照)

(2) 地域・企業のニーズに対応した卒業研究と特別研究

●卒業研究と特別研究の課題

- ・卒業研究において、「教員研究の手伝い」あるいは「練習実験的」になっている場合がある。
- ・特別研究については、学会発表や学会誌への投稿件数を増やす必要がある。
- ・本年度は卒業研究・特別研究の概要を一冊にまとめたものを作成する予定である。その内容の分類、分析により地域・企業のニーズに対応したテーマの促進を図る。(指導教員へのニーズの提供も必要)

2. 課外活動としての取組み

(1) 地域の要請に応じたものづくり活動

アイデア通りプロジェクト

自然エネルギー利用噴水装置



切山地区案内ロボット



あかがねの里 銅物園プロジェクト

(2) ロボットなど学生の学習の成果を生かした地域イベントへの参加



金子ふるさとためきまつい
全国商工会議所青年部連合会「大物産展」
24時間テレビ「愛は地球を救う」



(3) 地域ボランティア

- クラブ活動
奇術愛好会による出張実演
- 学生会活動
環境委員会による道路環境の維持(里親制度)
- 寮生会活動
地元の皆さんと協力して学寮周辺の溝掃除



2. 課外活動としての取組み

●課外活動としての取組みの課題

- ・実績数が少なく、参加学生数も少ない。
- ・特にボランティアについては、受入れ体制(窓口)も不十分で、また、学生の意識教育もできていない。
- ・奉仕活動やボランティア活動の具体的なニーズの提供と意識教育を並行して推進していく必要がある。
- ・本校のアソシエイツ、アドバイザーの方と連携した取組みも必要である。

本校における地域連携支援システム

学生・教職員

支援・指導

地域連携推進員（教育アソシエイト4名、地域連携アドバイザー1名）

学生のものづくり活動の支援
 技術職員に対する技術アドバイス
 福祉用具開発等における技術指導
 ものづくり教育の支援

委嘱

校長

3. 教育力向上のための地域連携の取組み

新居浜高専教育フォーラム

目的

地域の教育課題について、地域にあるさまざまな教育機関が学校種を超えて互いに教育経験を学び合い、情報交換を行うことにより、今後の教育のあり方を探求する。

テーマ例

・教科ごとの教育の現状と新しい取り組み
 ・クラブ活動の現状とあり方
 ・進路指導の現状とあり方
 ・習熟度別授業、少人数教育の現状と問題点 など

過去の実施状況

・「英語の使える日本人をどう育てるか」
 （平成15年12月26日（金）実施 130名が参加）
 ・「数学（算数）教育の向上を目指して～現状と課題～」
 （平成17年1月7日（金）実施 90名が参加）

本年度のテーマ

「考える力を育てる科学教育」
 対象：小学校・中学校・高等学校・高専、進学塾等の先生
 及び一般市民
 開催日：平成17年12月26日（月）



3. 教育力向上のための地域連携の取組み

・ 中学校・高校との相互授業参観

昨年度は市内中学校の授業を参観(3校:延25名)
 本年度、工業高校の授業も参観(16名)
 本校の保護者向け公開授業を中学校・高校へ案内(10/22)

・ 市内高校の生徒指導主事会議への参加

(高校の校外指導などには参加していない)

・ 交通安全講習会(警察署)、防火・救急訓練(消防署)の実施

3. 教育力向上のための地域連携の取組み

●課題

- ・ 行事・イベント的な実施で終わっている(いわゆる「やりっぱなし」)場合が多い。
- ・ 実施後にFDとして活用し、定着させていく必要がある。たとえば、定期的な研究会の実施や授業(特別活動)に反映させるなど。
- ・ 環境教育については新居浜市役所などと連携した教育が必要である。
- ・ 高校の校外指導(保護者と協力)などへの参加協力の必要がある。(地域的な問題)

4. 地域貢献としての取組み

公開講座

平成16年度実績
 9講座
 受講者数 57人

ガラス工芸技術の世界
 ホームページの作成
 新居浜機械産業協同組合の実技講座
 (7講座)



平成17年度実績
 4講座
 受講者数 22人

ガラス工芸技術の世界
 ホームページの作成
 新居浜機械産業協同組合の実技講座
 (2講座)



出前講座

○目的

新居浜高専の知的資源を幅広く地域に出向いて紹介することによって、地域の科学技術及び教育文化振興の一助を担うと共に地域社会との関わりを深める。

○対象

学校関係、生涯学習関係、企業、各種団体、勉強会 など

○小中学生対象テーマ 21講座

環境に優しいエネルギーについて
 コンピューターで絵や文字を描く
 電気で遊んでみよう! など

○市民対象テーマ 26講座

医療現場や生活の中での生体計測とは
 「化学工学の基礎」企業の技術者向け
 生命倫理について考える など

シンボルロボアイデアコンテスト

本校主催のコンテストとしては、初めての試み

応募作品数

学生・一般の部	112
小中学生の部	185



4. 地域貢献としての取組み

●課題

- ・講座数が少なく、本年度も新規の講座はない。
- ・出前講座としては試行的実施しかできていない。早期の実施手順のシステム化(テーマの情報提供は前年度に)が必要である。
- ・実施時期については、長期休業中、土日などの有効活用も検討し、学生参加型講座として定着させたい。(本校学生の学外学習としての取組み)。



4 質疑応答の概要

(1) 学校運営の現況説明

(2) 第1回運営諮問会議の各委員の意見に対する対応

(小松議長)

どうもありがとうございました。それでは、今の校長先生の説明に基づきまして少し質疑を行いたいと思いますが、最初に学校運営の現況報告をいただきましたが、これに関して何かご質問、ご意見がございましたら、お願いします。

大変いろんな活動をされているということをご報告いただきまして、外の方はなかなかわからないこともあるのではないかと思います。何でもよろしいですから出していただいて、議論をしていただければと思います。

(小松議長)

私からよろしいでしょうか。

JABEEのプログラムについてですが、どのくらいの先生方が参加してやっておられますか。

(校長)

プログラムごとで、40～50名ぐらいになります。基本的には、専攻科と本科4年と5年のプログラム全体が対象になりますので、当該プログラムに関係する学科の専門科目の教員は全員関係し、その他いわゆる一般教育部分の先生方もみな関係いたします。したがって、かなりの数の先生になります。三つのプログラムあわせれば、ほぼ全員に近い方たちになってまいります。そこでは連携をどのようにとっているのかということが課題として常に指摘されるわけでございます。専門学科とその基礎を担当するような、私どもは数理科と申しておりますが、数理科と一般教養科の教育とをうまくリンクさせていくことに留意しながら、関係者は全員参加するというところでやっております。

(小松議長)

技術者の倫理だとか新しい授業もありますが、それを学校内で全部やっておられるのですか。

(校長)

「技術者倫理」につきましては、私どもは5年生のカリキュラム科目として導入をいたしました。全員が、つまり5年で卒業する者もしっかりとした教育が受けられるようにということで実施しております。現状としては「技術者倫理」としてどういう内容の教育を、どのようにやったら一番いいのかということについて、まだまだ改善をしつつ、やっていかなければいけないところがございまして、現在のやり方は5名ぐらいの先生がチームを組み、いろいろな観点から取り上げる事例ごとに分担しつつ、5学科の学生が共通の教育を受けられるように実施しております。

(平田委員)

英語など外国語を学ぶにあたり、授業だけではなくて、実際に外国の人と会うとか、何か弁論大会をやるとか、応用的には何かありますか。

(校長)

3年目になりますけれども、外国人の英語の専任教員を採用しまして、その分5年生、3年生などのクラスを二つに分け、少人数教育でやっています。いわゆるコミュニケーション重視の、コミュニカティブな英語といいたいでしょうか、そういうものを推進するというようなことです。それから TOEIC の試験を念頭において専攻科生などに対して補習教育を実施しています。また、本科の学生については校内の統一試験というのを1年から5年まで共通の問題で、英検の準2級程度の問題で実施しています。それぞれの学生が自分の客観的な能力が把握できるということと併せて、学校の教育成果としてどの辺が弱いのか、例えば語彙力について非常に不足しているのかなどチェックをして、教育を改善していこうということです。それから学生のコンテストみたいなことについては、この秋もちょうど新居浜でございますが、総合文化祭というのを四国6高専の共同事業としてやっております、その中で英語スピーチコンテストを行っています。校内でも ESS のクラブを中心に、いろんな活動が展開できればいいのかな、と思っております。

(庭野委員)

学習環境の整備のお話の中で、e-learning をいろいろ工夫されて、なかにその立案企画能力、プレゼンテーション能力を上げるというようなお話になったと思うのですが、前回もちょっと感じたのですが、ミニロボコンとか、自ら企画するようところに実際の授業でも力を入れられているところに、ちょっと疑問に思いますのは、その e-learning みたいなものでこういうのが身に付くのだろうかという、どういう工夫をされているのかなというところです。

(校長)

実はこれはこれから12高専で作ってみようということなのですね。そのベースになっていますのはプログラミングコンテストなどの蓄積です。高専のプログラミングコンテストは、単に競うというよりは、プレゼンなりデモンストレーションを組み込んで入っております、そこは各学校の学生が、どのようなステップをとって、プログラムを完成させたかなど、いわば埋もれたソフトやノウハウがいっぱいあるわけですね。そういうものを少し整理しながら、教材として提供して、学生にも自らやらせてみる。各高専が同じプログラムでやれば、高専ごとにまた競い合えるのじゃないかというようなことですね。また成果物をお互いに活用できるじゃないかというちょっと欲張りな計画でございます。これをやったら他はいらぬということじゃなくて、e-learning の可能性として、いわゆる高専の教育実践の成果を、お互いうまく共有化し、活用できないかということで、始まっているということでございまして、来年、再来年ぐらいには、少しばかりは成果をご報告できるかと思えます。

(鈴木代理)

ご説明いただいたインキュベーションラボのことですが、これは校内だけのことなのでしょうか。例えばあとから出てくるのかもわからないですが、地域との関わりなんかは考えておられるのでしょうか。

(事務部長)

このインキュベーションラボにつきましては研究エリアをバイオ、マテリアル、エレクトロと三つにゾーニングをしました。主として共同研究を一層促進しようという狙いが一点目でございます。それから学内における横断的な研究を学内共同研究として展開してい

こうというのが二つ目のねらいです。三点目は先ほど愛テクフォーラムのご説明を申し上げましたが、研究部会の中から愛テクフォーラムの会員の方々と萌芽的な研究などを、共に展開していこうということでございます。以上のような多様な使い方ができるように、ということで考えたものでございます。

(小松議長)

よろしいでしょうか。それでは、また後ほどいろんな面からの議論をしたいと思いますので、ここではこの辺にいたしまして、次に入学志願者の確保方策について桑田教務主事からご説明をいただきたいと思っております。

(3) 入学志願者の確保方策について

(小松議長)

どうもありがとうございました。それではただいま説明していただいた内容に基づいて少し質疑応答、議論をいたしたいと思います。何か質問ございましたらどうぞ。

(田中委員)

重点地区になっております松山市で中学校の校長をしております。本校の卒業生も1名お世話になっているのですけれども、質問といいますか、ものづくりフェスタの説明に本校へ8月の10日に来ていただいたと思うのですけれども、よその学校へは、何日ぐらいから実施にあたり説明に訪問されたのでしょうか。

(桑田教務主事)

これにつきましては、今回が初めてであったこともあってPR時期が遅かったことは反省しております。準備の関係で10日前後2～3日で松山地区すべての中学校を回りました。

(田中委員)

夏休み中ですので、持ってきていただいても、なかなか生徒と会う機会がありませんので、もし来年度実施するのでしたら、できましたら夏休みの前に各学校へまわっていただいたほうがいろいろな面で徹底をするのではなかろうかと思っております。これ一点、そういう風に感じました。

(桑田教務主事)

ご指摘、ありがとうございました。

(田中委員)

ちょっと38名では少ないかなと思ったりもしてですね。

(桑田教務主事)

来年度の実施に向けて検討していきたいと思っております。どうもありがとうございました。

(岡田委員)

女性の生徒は今、何人ぐらいいらっしゃるって、何%ぐらいでしょうか。

(桑田教務主事)

今、2割弱、180数名です。

(岡田委員)

10年ぐらいのスパンで見れば、やっぱり女性は増えているのですか。

(校長)

女子学生の数は平成 5・6 年ぐらいに急に増えた時期があります。それで 5 年ぐらい前に最大 200 人ぐらいになった時があります。つまりある時期急に増えまして、それから徐々に増えて、それから最近はそこからちょっと減ったぐらいの感じになっております。ですから、どんどんと増え続けているという感じは今ございません。

(岡田委員)

ちょっと門外漢なのであたっているかどうかわからないのですが、全然違うところからの意見という意味で言うと、生徒数が減るなかで、高専以外でも私立の高校も含めて、これからは生徒の奪い合いの時代になるというようなところもあって、いろいろな試み、一生懸命されているというふうに思うのですが、やっぱり抜本的に増やしていくというのは、なかなか大変なことだと思うのです。すぐというふうなことではないかもしれませんが、女性が男子と同じぐらい応募してくれたら、応募者は倍近くになるというところがあって、女性、女子生徒というコンセプトはどういうふうに考えて、今のこれまではおそらく男子も女子も特に区別せずに募集もするし、結果として 2 割ぐらいですか、入ってらっしゃるといことだと思うのですが。私も娘がおりまして、もう大学になっていますが、高校時代に私の娘の友達に理科系の女の子が多くて、今の女の子はそんなに理科系が好きなのかと言ったら、女子は就職が大変だから、理科系に行ったほうがあとで就職が楽だということを考えて、理科系を選ぶ子が結構多いのだというような話を私の娘がしていたりしました。小松先生に伺ったほうがいいのかもかもしれませんが、おそらく愛媛大学などでも理科系の学部における女子の比率もどんどん上がっているのではないかなと思ったりもするのですが。高専のイメージっていうのがありますよね。なんとなくやっぱり油にまみれて、作業服着て男の子たちだけがやっている学校みたいなイメージがあるのではないかなという気もしてですね。男女共同参画ではないのですが、女性がもっとももっとこういう物づくりの現場に出て、入ってきても不思議じゃないし、そのほうが新しい発想もあるかもしれないという視点もあるかもしれない。そのことも含めて、少し意識して女性という視点を。まあそうはいつでも、なかなか親御さんが寮に出すかどうかという問題もあるかもしれませんが、あるいは寮にしても学内にしてもですね、女性のトイレから始まってですね、女の子たちが、暮らしやすい学校だなと思うかどうかというような、そういう設備面のことも必要かもしれないのですが、これから少し先のことまで考えたときに、女子生徒という視点もあるかなと思うのですが、これは現状、私わかりませんので、今いる生徒さんはやっぱり女の子は今ひとつ、入ってきても今ひとつなんだよね、というようなこともおありなのかどうか、わかりませんが、検討してもいい一つの視点かなとは思ったのです。

(桑田教務主事)

はい、ありがとうございます。確かに今 2 割弱ですから、50% ぐらいの比率になれば中学生の女子人口が多いというのでよくわかるのですが、実際には出口の問題があります。景気のいいバブル時代だといくら入ってきても「就職先は十分にあります」と言えるのですが、現状どうかという表向きは男女不問という求人票が多いのですが、実際には企業側にとっては男の子が欲しいという率のほうが高いのが事実です。そういった意味では、出口の開拓ができていないのが現状です。たとえば、「出口では女性のほうが有利ですよ」というような状況がつかれると、非常に PR もしやすと思います。実際には非常に難

しいと思われます。確かに検討していく項目の一つとは思いますが、どうもありがとうございます。

(校長)

もう少しその話させていただきます。本校では女子寮というのが実は長くありませんでした。それで平成 15 年に全寮制でなくなって余裕のあった男子寮の一棟を女子寮に改修しました。60 名ほどの女子学生が入れる、最新設備の快適な女子寮を設置しました。ちょっとまだその辺の PR が不足しているのかもわかりません。他の高専などで女子寮を整備したけど女子寮生が増加して足りない状況の学校もございますので、安心して預けられる女子寮をどのように運営確保するかということにも努めて、実績を PR ということも必要ですね。結局、中学を卒業したての子供を遠隔地に送ることに対して、保護者の方はかなり心理的な壁が高いのですね。だからこそ私たちとして、その心理的な壁を乗り越えるだけの魅力をちゃんと発信していく必要があるという気がいたしております。あと一つ悩みの種としては教員ですね。女子の教員が非常に少ないということがございます。今 3 名、84~85 名のうち 3 名ということでございまして、これは教員採用に際し、別に差別しているわけじゃなくて、採用は公募でやっておりますけれども、どうしても応募いただける女子の研究者の数が非常に少ない。これは国家的な問題になっているのですけれども。いずれにしても意欲のある女子学生に是非この高専に来て学んで欲しいという気持ちは変わりませんので、いろいろな面で考えていきたいと思っております。イメージとして高専はちょっと男っぽいという感じは確かに今でもあるのだと思っております。

(小松議長)

私の印象では、分野によるのではないかと思います。例えば、愛媛大学の理学部でも生物や化学は女子学生が非常に多くなっています。しかし物理、数学や地学などは少ないのです。農学部でも女子学生が多いのですが、生物や生き物を扱っているところは人気があるのです。ですから分野によるので、バイオテクノロジーや生命科学などは女子学生に魅力的ではないかと思います。ですから高専一般ではなく、ある分野をアピールして、そこへということとは可能ではないかなという感じはします。女子学生はだんだん増えていますが、やはり文系が圧倒的に多いです。教育学部や文科系の学部は半分以上が女子学生ですから、そういう傾向はあります。私の印象では高専はどういう技術者に育てるのかということが一番問われているような気がします。ですから例えば四年制の大学、工学部を卒業した学生と何が違うのかということが一番問われている。時代は変わってきましたから、そういう高専の学生が求められた時代と現在では、同じような主張ができないのではないかと思います。その辺が今、一番大きく問われていることかなという印象を受けました。ですからアドミッション・ポリシーにありましたが、物づくりが好きだと技術者になる、世界に通用する技術者になると。これは四年制の工学部のポリシーと何が違うかなという印象を受けましたね。その辺が中学生に訴えるときに、一番肝心なところかなという感じがしました。

(校長)

高専の技術者教育の特質を言葉でどうやって表現するかというところが非常に悩みなのですね。ですから中学生に学校に来てもらって、いろいろ見てもらって、やってもらってと、どうも今はそういう手法に頼っているわけです。小中学生向けのいろんなイベントをやって、来てもらうようなことになっているのは事実でございますね。言葉として、理

念としてしっかりとしたものを持ち、中学生の保護者の方にもわかりやすい形で、発信できるようにするというのは、確かに大きな課題だと思っております。結局、高専自体、卒業後の進路が非常に多様なものになってきていますので、昔のように5年間たったら就職するというのではなくて、進学を希望するという子も受け入れますよと。就職する子もですね、ちゃんとした即戦力というか実践力をつけて出しますよとか。いわば、理科の好きな子ならどんな子でも来てくださいますよと。ところがちょっと出てきていますので、その辺のところをどうイメージをうまく作っていくのかということがあろうかと思えます。全国の55高専も見てまいりますとイメージの出し方が非常に違ってきています。極端な学校はほとんど進学校じゃないかという風な実態もなっています。つまり、ほとんどの子はみな大学ないしは専攻科に進学しちゃうと。それで就職するのはほんのちょっとだという学校から。私どもの学校はどちらかというと、かなりクラシカルなタイプの6割が就職、4割弱が進学ということになっています。地元のニーズの動向をどう捉えてイメージを作っていくかということが広報戦略としてほんとに大切だと感じております。

それから先ほどの補足ということで、女子学生の数についてなんですが、学科によってすごく差があるじゃないかという小松先生のお話ですが、私の学校もまったくその通りでございます、例えば機械などは女子学生が5年生まででたった4名しかいないと。一学年一人ずつという感じになります。ところが生物応用化学科は95名、各学年20人づつぐらいいる。つまり半分は女子学生ということになります。その他学科によって、いろいろ違いが出てまいりますので、その辺りは女子学生を確保しようとする時には、今の女子学生自身が持っている志向性といいたいまいしょうかね、そういうものにやっぱり影響を受けざるを得ないなという面があります。客観的な事実としてですね。補足だけさせていただきます。

(小松議長)

ありがとうございました。

(桑田教務主事)

すみません。私の方から1つ訂正させていただきたいことがあります。先ほどの松山地区のフェスタの案内の件ですが、中学校に、1回目は7月の10日すぎに全中学校をまわりました。8月10日前後にまわったのは、応募者が少ないので2度目をまわったということでした。いずれにしてもちょっと夏休み直前だったということは問題だということは認識しておりますので、そこだけ訂正させていただきたいと思えます。私の勘違いでどうもすみませんでした。

(小松議長)

それではまた議論は後で続けることにいたしまして、ここで10分間休憩をとりたいと思います。よろしくお願ひします。

(4) 地域との連携による教育活動の促進について

(小松議長)

どうもありがとうございました。いろんな活動が展開されているという話をお伺いいたしました。まず、何か質問がございましたらどうぞ。

(川崎高度技術教育研究センター長)

高度技術教育研究センター長の川崎でございます。地域貢献としての取り組みについて、桑田先生から説明がありましたが、2、3 補足させていただきます。まず公開講座でございますが、「愛テクフォーラム」が発足しております、実施項目として技術講習会を掲げております。企画して進めていきたいと考えているところでございます。それから出前講座でございますが、これは講義形式ということで、演示実験や卓上実験を含んでいますが、実習はありません。ですからこれをさらに発展させて、実習ということで学生が参加していくことが一つの方策ではないかというふうに考えております。それから、この出前講座について、この10月の最初に新居浜市役所様のほうに伺いましてお願いしましたところ、小学校・中学校・公民館など、市内に周知していただけるということで、ご協力いただいております。また市民への広報の面でもご協力いただけるということでございます。早速、市内の小学校から電気の教員に申し込みがございました。そういう状況でございます。以上、補足させていただきました。

(小松議長)

どうもありがとうございました。何かご質問ございましたらどうぞ。

(庭野委員)

インターンシップ制度の話でございますが、私どもは受け入れる側の企業としての立場なんですけれども、毎回悩みますのが、二点ございまして、一つは秘密保持、もう一つが安全の問題なのです。私ども化学産業ですから、やっぱりいろんな作業を見てもどこかしら危ない、それから薬品の問題が生じまして、来ていただいた学生さんに怪我させてはいけないというのがまず最初に出てきます。それともう一つは守秘で、私どもの研究でございますので、どちらにしろやっていただくのは特許処理のされていない部分について、二週間ですと簡単な実験ぐらいになってしまうのですけれども、していただいた結果をどうしても学校で発表されることになりますね。それは学内で収まればということではあるのですが、やはり企業側としてそれが非常に気になりますものですから。あまりそういう問題がないテーマを選びますと、先ほど言われたようなアルバイト作業みたいところに陥る傾向にややございます。私ども最近、不適の評価になっているかもしれませんけれども、そこは悩みでございます。なんかそこはいい手立てがあればと思うのですけれども。質問というよりか、私どもの悩みと考慮いただければと思います。もう一点は卒研の問題でございまして、教員の手伝いになってしまっていると言われましたけれども、先生のある目的の中でその一部をやるという手伝いでしたら、非常によろしいのじゃないかと思っています。小松先生に怒られるかもしれませんが、大学でも今、修士レベルまではみなそんなものかなというイメージを持ってまして。やはり大学の先生も競争の中で、成果を挙げなくてはいけないということで、学生さんにはかなり固まった指示をしたかたちでやっておられるようなところがありますので、練習実験じゃなければそういう先生の一番やりたいことを手伝うという研究でいいのではないかなというふうに私には思えます。

ちょっとそういう印象です。

(桑田教務主事)

卒業研究の件ですが、教員の手伝いという意味は、要するにデータをとるだけで終わってしまわないようにということで、その学生にとって最低限意義があるようなものにするということです。題材としては教員研究でいいというように思っているのですが、単に作業的に終わってしまって、何をやったかわからない、ただメモしてグラフ書いて終わったとかいうようなことではだめだということです。それとインターンシップに関しましては、確かに守秘義務に関わる問題があります。現在は守秘義務的なことの確認をした上で報告書を冊子にまとめております。この冊子はインターンシップ先にはすべてお配りしておりますので、そこに書かれてあることはすべて、各受け入れ企業間の間での情報漏えいにつながる点があります。学生にはできるだけ、報告書に書く内容については了承をとっておくことを指導しております。確かにそういった、いいインターンシップをやろうとすればするほど、秘密関係とは裏腹な関係にあるということはおわかっております。そういった点はよくわかるのですが、だからインターンシップを受け入れないということではなくて、ご協力が得られるような体制をとっていきたいと思います。そういったことでいい対策法がありましたらご提案をお願いします。また、事前の安全講習につきましてはすぐに対応できようかと思っております。先の守秘義務につきましては、本校だけでは対応できない点があると思っております。その意味でも受け入れ機関との事前の打ち合わせが必要ということを感じております。以上です。

(早瀬専攻科長)

専攻科長の早瀬と申します。先ほどの守秘義務の件なんですけれども、シニアインターンシップのほうでも、報告会の前には受け入れ企業さんのほうに、こういう内容で発表しますということで確認を取って、一応発表するようにはしております。ただ学生との守秘義務契約というものを結んでおりませんので、あとはほんとに紳士協定になっています。また、学生にはノウハウ的なこと、特許になるようなことは口外するなよ、というか、あまり他のところでは言うなよ、という指導はしております。

(平田委員)

さっき、各種講座とか、ものづくりフェスタ、夏季体験学習等への学生さんの関わりを考えているのだというお話でしたので、自分の体験をちょっと話しておきます。新居浜工業高校へ市内のある団体の社長さんら 30 人ぐらいインターネットの勉強に何日か行ってもらいました。学生さんが毎晩 5~6 人ずつ付いているのですね、自主的に。先生は正面にいらっしゃるけれども、5~6 人が後ろに回りこんでくれまして、ほんとに文字通り手取り足取りね、手伝うわけです。その学生さんの態度がすごく爽やかで。結局その学校の評判になりましたね、すごくよかったです。だから是非学生には参加させてもらいたいなと思います。それからもう一つ、女子の問題も含めましてですね、出口の問題がありますということでしたけれども、卒業生をうまく利用して欲しい。私のように歳いった卒業生じゃなくて、この 4~5 年以内の卒業生です。たぶん学生さん自身も、どういうところへ行こうかな、といういろんな悩みがあるのですけれども、比較的若い方の卒業生というのは、中学生からみても身近なところなんですよね。そこら辺の卒業生が母校に帰ってきて、例えば社会に出たらこうなのだから今はこんな勉強をするべきよ、とかいうような講義をしてもらったり、なんとか便りに登場させたり、その辺を繋いでいくと、効果的じゃない

かと思う。うちの会社もですね、確かに工業化学、今は生物応用化学ですかね、そちらのほうのようなのは住友化学さんのような大きなところじゃないと、なかなか働き場がない。機械となったら男子じゃないと、みたいなどが確かにあります。力仕事だし、危ないし。ちょうどその間ぐらいが電子関係です。プログラムであるとかね。うちの会社も卒業生の女の子、女子社員でほんとにとことんもう任されてね、2年目ぐらいでいっぱいやっていますから。夜中までやっています。だからそういうようなのを、やりがいありますか、とかインタビューでも何でもいいからそれをフィードバックしてやる。そういう仕掛もどうでしょうか。以上です。

(小松議長)

私の印象ではいろんなことをやりすぎているのではないかと思います。うまく人を分担しないとオーバーワークになって大変だと思うのですが、いかがですか。その仕分けはできているのですか。

(桑田教務主事)

おっしゃる通りです。何か初めてやろうとすると、まずは一番の適任者で、やってくれる人をお願いせざるを得ないというのが現状です。そうしますと、どうしてもそういった人というのが偏ることがあります。2回目以降、うまく定着させていけば、学内での分担する人、対応する人が出てくれば、そういった偏りもある程度解消されると思うのですが、現状はおっしゃる通りです。このままで終わるとたぶんパンクして継続が難しいということがおこりかねないのはよく感じております。

(小松議長)

やはり、大学もそうなのですが、やる人がどこかに集中してしまうのです。それをうまくやらないと結局はだんだん衰退していくこと恐れがありますが、その辺はいかがですか。

(校長)

ちょっと角度が違うことになるかも分からないのですが、私どもの学校も専攻科生までいる学校に育ってまいりましてですね、専攻科に進みたい学生も増えているという現状がございます。それで、学生自身が学んだことを生かしているいろいろな活動ができる状況もできてきつつありますので、最近の言葉で言えばサービスラーニングということでしょうか、学生が地域に出て学んだことをうまく生かした社会的活動を展開し、それを学校としてうまく支援してやるということが、一つの課題と感じています。今年、私どもの学生の活動がたまたま愛媛新聞で紹介されて、私はこのことを新聞に出て初めて知って、うちの学生頑張っているなど思ったことがございました。お手元にあります本校に関連する新聞記事の中にも入れてあると思います。ある専攻科の学生が、夏休みに中学生を手伝いとして、地域で小学生にパソコンを教える。ワープロソフトで文章が書けるようにするとか、インターネットをどうやって使うかというようなことを高専の学生が中心にオーガナイズをしてやったということで、非常に喜ばれたと。これはその小学校区の少年愛護班に頼まれてやったということで、大きくとりあげられておりました。これ自体、学校側は全然関わってないのですよね。そういう動きを支援して、先生とうまく組み合わせてやっていくようなことは、学生にとっても非常にいい経験になるというふうにも感じますので、これも一つのこれからの新しい地域貢献の姿として捉えていきたいと思っています。

(鈴木代理)

地域貢献の方は、非常にたくさん貢献して頂いて感謝をしているのですけれども。入学

志願者の確保ですね、その中で卒業後の志がまだわからないというようなこととか、出前講座をやっているといわれることを参考にして、ちょっとヒントになるかもわかりませんので紹介したいと思うのですが。今日は住友化学さんがお見えになっていますが。住友化学さんの技術者の方が、定年近い方だったのですけれども、是非とも地域に貢献したいというようなお話がありまして、実はある小学校を紹介しました。一ヶ月に一回、わずか1時間のことなのですが、テーマを決めまして、今日は光の原則に関することですか、今度は動力の伝達に関することですか、をテーマを決めて子供たちにその実験をして教えてやるということを始めましたら、子供たちは非常に目を輝かして、喜んで参加をしているということを聞きました。今は1校だけではなくて3校ぐらいに広がっています。住友化学さんのご協力を得ています。そういうことができ始めると、例えば中学校だけじゃなくて、小学校のときからそういうふうに理科系のほうへ目を向けていくと思います。長期的にはなりますけれども、理系に進む人もたくさん出てくるのではないのでしょうか。この研究者の方が言っていましたけど、6年後に教えた子供に会って、先生に教えていただいたことで、私は理系に進むことに決めましたということを知って、非常にうれしかったということを知っていました。できることでありましたらそういうことで、小学生の頃から、そういう話をできるようにすれば、もっといい街になるのではないかなというような気がしたものですから、ご紹介だけさせていただきます。

(小松議長)

どうもありがとうございました。もう時間も迫ってまいりましたので、何か最後にございましたらお願いします。

学長会議などで学長が集まると、郵政民営化の次は国立大学だというような噂をするのです。私は高専は機構として一つにまとまったので、民営化しやすいのではないかと思います。高専予算をみますと、一高専あたり年間約16億円、全体で約800億円くらいです。これを、10年間で民営化するから整理しろと言ったら法案が通ると思います。それを避ける方法とはいうと、これは地元の支援しかない。地元が、高専をつぶされては困るという声しかないと思います。我々地方大学も同じなのです。ですから地元の企業のうち、8割以上は中小企業ですから、その地元企業の工業力、あるいは技術力をいかに高めるか、そこに高専がどのくらい貢献するのか最大の課題だと思います。就職をみると、新居浜に就職している学生は少ないようです。それは需要がないのか、あるいは高専の努力が足りないのかはわかりません。新居浜に限らず、愛媛地域の中小企業の技術力をいかに高めるかを最大の課題にして、技術力を支える若い技術者をつくることが最大のテーマではないかなと思います。そのためには、地域のニーズを常に把握してそれを学校の中に持ち込み、それを高めていくことが必要です。その結果、地域の人が支えてくれる。これは絶対つぶしてはだめだということにならないと非常に危険だと思います。我々の大学ももちろん同じです。そういう意味で多彩な活動をされておりますが、何か軸が少し足りないなとか、腰を据えるべきところが少し欠けているのでは、という印象を受けました。非常に努力されていることはわかりますが、あえて厳しい言い方をすれば、このままでは持ちこたえられないという感じがします。そういう点で我々大学とお互いに切磋琢磨して連携しながら、やっていく必要があるのではないかと思います。ですから我々大学側は、もちろん足りないところがたくさんあるので、高専の方と一緒に、愛媛県の技術力をいかに高めていくかということと一緒にやっていきたいと思っています。私からも是非そういう点で

はよろしくご協力、ご支援を勉強しながらやっていきたいと思ひます。

(校長)

せっかくですから、西岡委員さんに地元の企業として何か注文がございましたら、ちょっと発言いただいて、最後に私の方からお礼を兼ねてご挨拶させていただきます。

(西岡代理)

西岡鉄工所ですけれども、地元の産業界とすれば、やっぱり高専の生徒、昔の考え方からすると、現場の技術者で将来、会社の中核を担ってほしいと、そういう人が欲しいと、そういうことだろうと思うのです。けれども、このところやはり、高専を出て就職する人よりも大学に行ってしまう人の方が多いと、そういうような話も聞きますし、先生らは大学へ行くのを勧めとんじやないか、というような話も仲間うちでは出るのです。そういうことで会社、地元の産業界も魅力を増やすということももちろん大事ですけれども、インターンシップなども通じて、また地元との連携を進めていってもらいたいと、そう思ひます。

(校長)

では、私の方からお礼も兼ねて一言。小松先生から大変激励をいただきました。やはり高専の使命というのは、創造的、実践的な技術者を世に送ることをごさひまして、そのことをやりとげることが、高専の社会的な存在を多くの方から支持いただけることにつながるという気持ちで教育に専心してきたことは間違ひないわけをごさひます。ただ、これだけ時代が変わってきておりますので、従来の通りの教育をしていればいいということはないわけをごさひますので、時代にあった教育を実際にどうやっていくのかということところが大切だと思ひております。今日は直接、そういうテーマではご報告、ご審議をいただかなかったわけをごさひますけれども、またいつかそのようなテーマを設定して、いろいろなご意見をいただきたいと思ひております。また、地域において新しい産業創出につながるような活動について、高専がどれだけの貢献をしているのか、可能性を持っているのかということについても、現状を報告して、ご意見いただきたいというふうに思ひております。本科の卒業生のだいたい4割程度が県内就職ということになっておるわけをごさひます。どこの企業さんからも、もっと就職をさせてくれ、という話をお伺ひすることがごさひます。高専生がなにも大きな企業で小さな歯車になることだけを目指して教育しているわけではごさひませんので、地域の企業の方でも、やはり新しい産業を起こすような、活力ある企業等ですね、是非そういう経営もしていただきながら、私どもがそれにお役に立てるように、教育をしていきたいというふうに思ひております。

それで最後に重ね重ねのお願いで恐縮でござひますが、本日の非常に限られた時間、また資料を予めお送りしてないかたちでの会議で、大変失礼をいたしておるわけをごさひまして、お手元にメモの用意をさせていただいておりますので、十分お話いただけなかった点について、後ほどFAXで、できれば2週間程度の間にお送りいただけると幸ひでござひます。それをまた、学校で検討いたして、次回、今日いただいたご意見にそれを含めて学校としての対応状況をご報告させていただきたいと思ひております。それからお手元の資料でござひますが、二つ用意しておりまして、ちょっと非常に大部なもので申し訳ないのですが、基礎的な資料と今回のテーマの直接的に関係するものになっております。お差し支えなければお持ちいただいて、お目通しをいただけると幸ひに存ずるわけをごさひます。ほんとに本日は大変お忙しい中、ご出席いただき、貴重なご意見をたくさんいただ

きましたこと、重ねてお礼申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

(小松議長)

それではこれで終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。



5 委員の追加意見・要望等

1. 入試志願者の確保方策について

非常に難しい問題。ご説明にあったような高専を理解してもらう活動を続ける事が重要だと思います。中学3年生の時点で最終の進路まではっきり決めるのは難しいと思います。親としても同様でしょう。高専には卒業後にもいろいろな選択肢がある事を強調すべきではないでしょうか。(庭野委員)

良いイメージでの認知度を高める。校名を知らない人はいませんが、常に注意を引きつけ、思いおこさせ、興味を持ってもらう事が必要。それにはTV、新聞等メディアの利用が効果大。ニュース提供の努力は必要だが、手軽に身近な出来事も常に発信していけばよい。本人及び身内、地域の人々、全てひっくるめて「行きたい学校」のイメージを焼き付ける。

メディア(地方紙、ローカルTV, Radio局, CATV)を活用する。

ニュース性のあるものをどんどんアピールする。

ニュース性のあるものを意図的に手がける。

小・中学生、親などに憧れとして植えつけてゆく努力。(平田委員)

入学志願者の確保方策については、まず子供たちの理系離れをくい止めることが重要と思われることから、地元の小・中学校と連携し、新居浜高専の先生や学生が積極的に小・中学校へ出向き、子供たちが面白いと思うような実験を授業の中で数多く体験させることで、理系科目に興味を持つ小・中学生を掘り起こすことができるのではないかと。(鈴木委員)

学校訪問の説明だけでは、高専の特色が十分に伝わらない面がある。できれば中学校主催の進路説明会に参加できるよう、中学校側に積極的にPRをする必要がある。(田中委員)

2. 地域との連携による教育活動の促進について

地域貢献はこれから重要な活動になってくると思います。申し訳ありませんが、高専として具体的に何が出来るかという点につきましてはアイデアがうかびません。少人数のブレインストーミングで議論されてみてはと思います。また学生の中から出てきた自主的な活動があれば、学校としてできるだけサポートする体制を考えてはいかがでしょうか。(庭野委員)

文セン等をかりて、高専主催にふさわしい講演会を開催。

田中フェロー、ホリエモン等、客を呼びやすい講師

学外の施設で行い、一般の人を歓迎

学生が主体、教職員や愛テクフォーラムメンバーが支援

先生方の負荷を軽くするメリットも考え、学生の活用をもっと考える。

自主、フロンティアの精神を持った学生づくり

社会人講師をもっと多用する。

愛テクフォーラムの延長、学生との関わり合いを増やす。

(平田委員)

3. その他

いろいろなところで進められている立案企画能力、プレゼンテーション能力を向上するための教育は、学生が社会に出て技術者として活動するために重要な項目と思います。これからも教育に工夫され、より高いレベルを目指していただきたいと思います。

(庭野委員)

人間力を強力に育てる、倫理、道徳的な教育。

立派な日本人というか、正しい日本人というか、それを正しく真剣に考えている学校がまだみえない。逆に先導者になるチャンスである。人気が高まり入学者は溢れる。親孝行、礼儀、挨拶、e. t. c、きりっとした姿勢・・・かっこよいという風土。どなたでも「新居浜市倫理法人会」をのぞいてみてほしい。宗教等とは無縁ですのでご心配なく。

地元の倫理法人会に教職員の方が入会して、基本を学ぶ。(企業の社長達と共に)

知識や技術にウエイトが偏り、心や倫理、道徳、感性といった無形のものがおきざりにされてきた。少しテコ入れを図るだけで全体が容易に変わるものである。

(平田委員)



6 関係資料

(1) 配付資料一覧

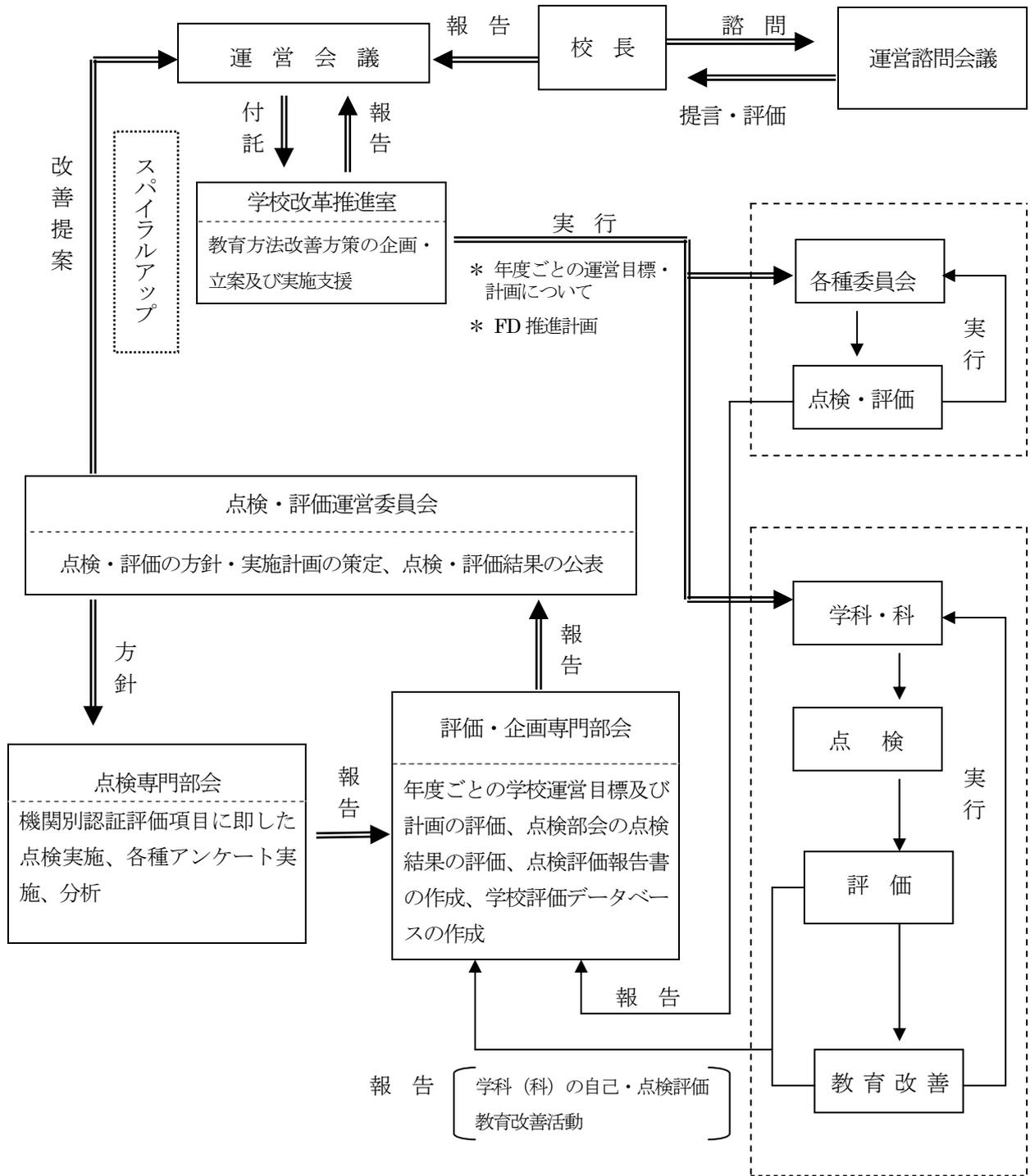
審議関係資料 (第2回運営諮問会議用)

No.	資料名
1	平成16年度 インターンシップ報告書
2	平成16年度 専攻科シニア・インターンシップ実施報告書
3	平成18年度 学生募集要項
4	平成16年度 本科卒業研究・専攻科特別研究資料

運営諮問会議 基礎資料

No.	資料名
1	学校案内 2005
2	はばたけ未来へ 2006
3	独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画
4	独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標
5	平成17年度 学校運営目標
6	平成17年度 教育改善推進計画
7	地域との連携活動報告(平成17年10月現在)
8	新聞記事から見た新居浜工業高等専門学校(平成17年10月現在)
9	平成16年度 運営諮問会議報告書
10	平成17年度 本科履修要覧
11	平成17年度 専攻科履修要覧
12	高度技術教育研究センターパンフレット

(2) 教育改善等実施の組織体制図



(3) 新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程

平成17年2月8日規程第2号

(設置)

第1条 新居浜工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、地域のニーズ及び時代の変化に即応し、効率的かつ効果的な学校運営を確保するため、運営諮問会議(以下「会議」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 会議は次に掲げる事項について、校長の求めに応じ意見を述べるものとする。

- (1) 本校の運営基本方針及び教育研究計画に関すること。
- (2) 本校の教育研究活動及び地域連携活動等の評価に関すること。

(組織)

第3条 会議は、本校の教職員以外の者で、高専に関し広くかつ高い見識を有する者のうちから、校長が選考した若干名の委員をもって組織する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任することを妨げない。

2 前項の規定にかかわらず、委員に欠員を生じたときの補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 会議に会長及び副会長を置き、それぞれ委員が互選する。

- 2 会長は会議を招集し、その議長となる。
- 3 会長に事故あるときは、副会長がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(報告)

第7条 校長は、運営諮問会議での審議事項について、運営会議に報告するものとする。

(事務)

第8条 会議の事務は、庶務課において行う。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成17年2月8日から施行する。
- 2 新居浜工業高等専門学校外部評価委員会規程(平成13年8月29日規程第8号)は、廃止する。